

青年海外協力隊 OB 会会長賞
更別村立更別中央中学校
3年 小本 乙乃

「小さな力」届けます

世界の人々は、今、どこで、何をしているのだろうか。豊かな国で元気に学校へ通う子供達。限られた資源を頼りに必死に生活している人達。医療が発達していなく、次々と亡くなってしまいう幼い子供やお年寄り。そんな人達のために今、私たちが出来る事はなんだろう。今回私は地雷について考える事にした。

四年前、私達の学年はカンボジアの地雷撤去のため、チャリティー収穫祭を行った。自分たちの手で田んぼをやわらかくし、苗を植え、稲を刈り、脱穀し、精米した。お米を一から作るのは大変だったが、カンボジアの人達の苦勞に比べると米作りくらい大した事なかった。その米でお餅をつき、他にも色々な物を手作りし、収穫祭を開いた。それを食べてもらい気持ちだけでもと募金してもらったお金をカンボジアに送った。するとそのお金で地雷を三個も撤去出来たそうだった。自分達の苦勞で何人かの命を救えた。これほどの達成感を感じられたのはおそらく初めてだろう。人が人を救い、助け合いながら生きていく。当たり前な事をそう簡単に出来なくなっている世の中には助けを求め苦しんでいる人も少なくはない。今、開発途上国と呼ばれている国では不規則な生活を送らないといけない状況で栄養不足に陥り、満足に子育ても出来なくなっているのだ。しかしそんな人達を、可哀相と思っはいけないと私は思う。ただ少しだけ、恵まれなかった部分がある。というだけで、中身は皆と同じ人間なのだから。

世界中には色々な生活を送っている人がいる。一人の力は小さいが、どんなことでも協力すればそれはきっと大きな力となり、現地の人々に届くだろう。

(原文のまま)